

ベトナムの魅力、ビジネスの可能性を探る

=ベトナム経済産業視察団報告=

本所は、平成19年3月20日～24日にかけて、中村科学工業株式会社 中村重嗣氏（本所国際委員会委員長）を団長に全28名からなるベトナム経済産業視察団を派遣。

本視察団は、ベトナムの北部、中部、南部の3都市を3日で回り、ジェットロ・ハノイセンター、国家機関、3都市の事業形態の異なる3工業団地、5企業の視察とホーチミン日本商工会との交流を通じて、ベトナム経済・投資環境及び生活・文化を把握し、ベトナムの魅力、ビジネスの可能性を探った。



中村団長



地図 出典
国際機構 日本アセアンセンター発行
ASEAN観光ガイドベトナムより

=ダナン=

ダナン市と6つの工業団地

説明：ダナン工業団地管理委員会 副委員長 Tran Van Dong 氏
ダナン市の概況とダナンにある6つの工業団地の概況について説明を受けた。



■Daiku-jv Co.,Ltd 説明：社長 西山厚實氏

【事業形態】アイ電子工業65%（栃木県大田原市）
DAIZICO社（ダナン工業団地インフラ開発公社：政府系100%子会社）35%【事業】進出日本企業向け標準リース工場の建設管理・運営業務
ホアカイン工業団地内にあり、同工業団地のインフラ、リース工場及び貸事務所の延面積・賃料などの説明を受け、入居している日系の緩衝材原料メーカー（従業員6人）・特殊縫製メーカー（従業員150名）入居前工場、共同利用の従業員食堂・会議室・研修室などを見学した。

=ハノイ=

日本貿易振興機構（ジェトロ）ハノイセンター

説明：次長 高野光一氏

ベトナムの経済動向・貿易動向などの経済概況、投資環境・投資動向などの投資概況、今後の経済見通しについて説明を受けた。



■Daiwa Vietnam Ltd. 説明：取締役 山影 準氏

【工場稼働】2006年【資本金】総投資1,500万米ドル（法廷資本金：500万米ドル）【出資】ダイワ精工100%
【業務内容】ロッド、リールをはじめとする釣具全般の製造・販売
【従業員数】日本人駐在2名、ベトナム人250名
会社概要と、ダナン立地を選定した理由などの説明を受け、工場を見学した。



=ホーチミン=

アマタ工業団地 説明：セールスエグゼクティブ 上林裕明氏

【事業形態】ベトナム側30%、タイ側70%
【総開発面積】700ha（現在までの開発面積約230ha）
【最低販売面積】約0.7ha
工業団地の概要、土地リース状況、標準工場（標準サイズ、標準賃貸料等）電力、上下水道、通信、投資コスト比較、ロケーション、ベトナム南北比較、操業開始までの段取り、法人所得税に対する恩典、輸入関税及びVATなどについて説明を受けた。



■Fujitsu Computer Products of Vietnam, Inc.

説明：社長 山下貴規氏
【設立】1995年【製造部品】主にハードディスク・PC・携帯電話のプリント基板【資本】富士通100%
【設備投資】160億円【従業員】3,526名、大学卒350名、管理職（ベトナム人26名・日本人15名）ベトナム人労働者3,135人
【工場の稼働】3直交代
会社概要、製品、工程、工場の立ち上げ、生産高・人員の推移、日本とベトナムの年齢構成の違いの説明を受け、工場を見学した。



ホーチミン日本商工会との交流会

石川会長（丸紅ホーチミン駐在事務所長）をはじめ三菱東京UFJホーチミン支店長、ジェトロホーチミン事務所長、双日ホーチミン事務所長、伊藤忠ホーチミン事務所長、ロート製薬ベトナム社長、全日本空輸ホーチミン支店長のメンバー7名と夕食懇談会を行った。

ベトナム食品科学技術協会（VAFST）

説明：総書記 Le Doan Dien 氏（協会の幹部）

食品開発、食品産業に関する調査・研究、食品技術資格付与、食品メーカーへの食品品質・安全性の指導などを行う国家機関。ベトナムの食品の安全基準とその指導について説明を受けた。参加の食品メーカー4社の方から活発な質問があがった。



タンロン工業団地 説明：Senior Director 福田繁夫氏

【事業形態】ベトナム側42%、日本側58%（住友商事出資）
【総開発面積】277ha（現在までの開発面積 約195ha）
【投資金額】11.9億米ドル（全ベトナム投資額の約15%）
【入居企業】68社（工場：48社、事務所：20社、うち日系企業：65社）



ベトナムの工業団地の中で最高級の設備を完備。入居日系企業は、キャノン、デンソー、松下電器産業、ヤマハ発動機など大手が多い。

ドラゴンロジスティックス 説明：社長 中西英介氏

【設立】1996年【出資比率】住友商事27%、鈴与25%、ベトナム側48%【主要業務】輸出入通関/国内輸送/配送センター（倉庫）保税倉庫/国際輸送
会社概要に加え、ベトナムの物流環境と今後の新たな物流ルートの説明を受け、一般倉庫と保税倉庫を見学した。



同視察団に参加した、富士フイン株式会社 伊藤公正氏（本所会頭）の所感



ベトナムは、12年前、同じ商工会議所のベトナム経済産業視察で訪れているので、どう変わったのか見てみたかった。もう少し発展しているかと思ったが、意外と変わっていない。変わっていないことが一つのビジネスチャンスである。今後は、優秀な日系企業、勤勉で親日的なベトナム人、インフラ整備で発展すると思う。また、富士通の視察で、富士通の海外進出立地の考え方が分かり参考になった。こうした海外視察を通じて多くの団員が“ビジネスチャンスは世界中にある”ことを認識できたと思う。



参加者の声

ハイテクからローテク、大中小零細企業まで視察でき参考となった。（卸売業） 想像以上に治安がよく、識字率も高かった。（食品製造業） 単純なアッセンブリーはできるが、大型設備を扱えるワーカーはまだ少ない。（食品製造業） 勤勉で親日的な国民性が非常に好印象であった。（製造業） 今後も日系企業の進出・索引がベトナムをより発展させる。（製造業） 車や不動産関係の値段が高い。（自動車販売業） 農産物の安さに驚いた。（食品製造業） ホーチミンは10年前の中国に似ている。（製造業） 10年後が楽しみな国である。（化学工業） 進出には裾野産業の発展が必要である。（製造業）